

「職

業選択の自由、アハハハ」

1980年代後半のバブ

ル期にテレビで流れた女性向け就職情報誌のCMソングのフレーズだ。

核家族化や都市化が進んだ現代の日

本では、職業は自由に選ぶもの、

という考えが定着し、家業を継ぐ、

という概念が希薄化しつつある。

さらに歯止めの効かない少子化問

題、また中小企業をめぐる税負担や

借入保証といった金銭的

な厳しさも立ちはだかる。

NTTやJR各社などか

つて国営だった一部を除

けば、日本企業の圧倒的

多数が家業＝ファミリー

ビジネスを起源としてい

るものの、後継者不在に

頭を悩ませる経営者は少なくない。

そこで浮上する手段がM&Aなど

による第三者への事業承継だが、経

営者としてこれまで心血を注いで営

んできた家業だ。マネーゲームのよ

うにお金だけが目的の人へは渡した

くない。

「ただ事業承継するのではなく、『思

い』を理解してくれる人に継いでも

らいたいと考える経営者は多い」と

M&A仲介業者は口をそろえる。ま

た「『思い』が受け継がれるならば」

と、相手次第では比較的安価に事業

を譲渡する経営者もいるという。

そして新型コロナウイルスによる厳しい経

営環境で事業承継ニーズが今まで以

上に高まる中、創業家の思いを大切

にしながら事業承継をするという新

しいスタイルの事業承継を行う新興

企業も登場している。今春創業した

「家業を継ぐ人がいない……」 創業の思いつなぐ事業承継



まん福ホールディングス
加藤智治社長